

## 平成 30 年度花巻市石鳥谷地域協議会第 2 回会議 会議録

【日 時】 平成 31 年 3 月 20 日（水）午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分

【場 所】 石鳥谷町保健センター 2 階 講義室

【出席者】 出席委員：14 名

藤原けい子委員、伊藤浩司委員、伊藤直樹委員、高橋庄一委員、  
岩舘仁委員、熊谷秀夫委員、八重樫康治委員、藤澤信悦委員、  
佐藤芳彰委員、高橋公男委員、似内英悦委員、大竹佐久子委員、  
鎌田愛子委員、板垣武美委員

欠席委員：1 名

鈴木淳一委員

担当者及び事務局（石鳥谷総合支所）：6 名

菅原総合支所長、晴山地域振興課長補佐、阿部同課長補佐、  
伊藤係長、菊池主査、菅原主任

【諮問事項】

(1) 道の駅「石鳥谷」施設再編基本構想・基本計画（案）について

【その他】

【傍 聴】

会議を傍聴した者 1 人

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配布資料は以下のとおり

資料

・道の駅「石鳥谷」施設再編基本構想・基本計画（案）

## 1 開会

晴山地域振興課長補佐

ただいまより、平成30年度花巻市石鳥谷地域協議会第2回会議を開会いたします。

本日の会議は鈴木淳一委員から出席できない旨の連絡がございました。委員の半数以上の出席がございましたので、花巻市地域自治区設置条例第9条第2項の規定により会議が成立しておりますことをご報告いたします。

本協議会の会議は花巻市審議会等の公開に関する指針に基づき会議を公開にしておりますことをご了承願います。会議でご発言される場合は、記録の関係上マイクをご使用くださるようお願いいたします。

初めに似内会長より挨拶を申し上げます。

## 2 会長挨拶

似内英悦会長

今日は天気の良いところ申し訳ない時間に召集をしたかなと思いますが、大変ありがとうございます。しかも年度末ということで、それぞれの団体あるいはコミュニティ会議におかれましては、年度末の反省と評価、平成31年度に向けての計画づくりに邁進しているところで本当に忙しい中だったと思います。

この会議におかれましても、2回目ということで、市の方からの諮問等もなく今回2回目となってきましたが、今回は道の駅ということで皆さんから活発なご意見を頂きたいと思っております。

先程申し上げました地域協議会としての在り方については、いろいろとご意見が在るようですが、私自身が思っているのはいわゆる石鳥谷地域だけの問題かもしれませんが、各地区にコミュニティ会議が存在し、コミュニティ会議が地域の課題を出し合って、そしてそれをどのように持っていくか話し合っているということで、地域協議会が地域の課題に対して、何かするべきではないか、それぞれの自主性に任せるのがいいのではないかと思っております。

しかも、コミュニティ会議におかれましては、石鳥谷地域の6つのコミュニティ会議が集まって、それぞれの状況を話し合っているのを見れば、それぞれの自主性に任せるべきではないかという感じがして、私も敢えて動いてはいません。それでいいのではないかという気がしております。

今日は諮問事項ということで、ようやく道の駅が動き出すのかなという感じがします。前々からこの道の駅につきましては、岩手県第1号と言いながらも資料の課題の中にあるとおり、この道の駅のあり方とかせつかく国道4号に面していながらよく見えないなという感じがしておりました。それらも新しい形でこういう風にリニューアルして

いきたいと話が出ております。

みなさんどうぞご賛同の上前に進むよう重きをおいていただければ幸いです。

### 3 諮問事項

資料に基づき説明（説明者：菅原石鳥谷総合支所長）

似内英悦会長

説明が終わりました。私も事前に資料をいただきまして、驚きましたのは、道の駅スタンプラリーのスタンプ数が第1位となっていることで、国道4号線沿いにあって知られていることかなと思いました。そういうことからすれば、やはりリニューアルしてより多くの方に、寄っていただけるような施設にしていきたいと思えます。

質問意見一括してご発言をお願いします。

岩館仁委員

最初に聞きたいのは、諮問事項ではなくて今日は意見聴取とのことだが、今回基本構想・基本計画という大事なものを決めるということでこの32ページのスケジュールを見れば平成30年度中に作成してしまうことになっている。

昨日、議員さんに説明して、今からパブリックコメントをかけるとなるとパブリックコメントの意見は基本構想・基本計画には反映されないのかが一つの疑問であり、この石鳥谷地域協議会はこういった大きい大事なことを諮問されて答申するといった機関ではなかったのかなと。

今後基本設計に反映されるかわからないが、この案件が諮問されないで進められていくとすると協議会の役割について疑問が沸きました。

今後意見を聞いたり、31ページに施設の配置については基本設計段階でも検討するとあるが、そういったことは、もう少し最初の段階に織り込むべきことではないかと思いましたので教えていただきたい。

菅原支所長

基本構想・基本計画の決定は、30年度中に終わるのではなくて31年度にずれ込むことになりまして、今日地域協議会からご意見をお聞きしますし、今月26日から来月24日までパブリックコメントを行うこととしております。

その中で、いろいろなご意見を検討した上で、それを基本構想・基本計画に反映させた上で、最終的に決定するということが、現段階の予定では5月中に決定させるということですのでございますので、皆さんからいただいた意見は、当然基本構想・基本計画に検討の上反映させていくことにしています。

それから今回諮問事項でない理由は、今回の計画は道の駅の施設を変更してリニューアルさせようということで、地域協議会の委員から意見を聞く必要はあると思うが、諮問という形式をとる案件でないと考えており、今回意見を聞くという形をとった。

また、市民参画の手続きの中で、皆さんからご意見をお聞きすると位置付けているため、今回諮問ではなく、ご意見をお聞きするという事で今回協議会を開催した。

岩館仁委員

道の駅というのは産直といったものも地元に関わってくるし、道の駅を変えるというのは市長がいろいろな場でおっしゃっているし、石鳥谷地域にとっては大事なことだと思う。

今回の道の駅を諮問しないのであればどういったものを諮問するのか。

似内英悦会長

地域協議会の位置付けだと思う。

菅原総合支所長

諮問事項については、花巻市地域自治区設置条例の中に記載されている諮問すべき計画については、新市建設計画に関する事項、基本構想及び総合計画に関する事項、各地域計画に関する事項、その他市長が必要と認める事項となっております。

岩館仁委員

ということは市長が諮問は必要ないという位置付けになったということか。

冒頭の説明で、立地適正化計画やいろいろな計画の下にある計画と説明があったが、今回の基本構想・基本計画はそういった大事な計画の下にある計画だから、諮問する必要がないということか。

菅原総合支所長

基本的には施設を改修するという計画ということで

岩館仁委員

総合計画であっても施設改修のことが盛り込まれていると思うが。

似内英悦会長

暫時休憩とします。

似内英悦会長

会議を再開します。

岩館仁委員

説明をずっと聞いていて、駐車場を増やすとかがあったが、インバウンド対策は何をするのか資料を見たら、1ページにパンフレットを置くとかピクトサイン表示するとか、SNSを活用するとの記載があるが、インバウンド対策としての人の配置に関する計画はなにかあるか。

菅原総合支所長

この構想の中にハード・ソフト両方がしっかり入っているべきだと思うが、資料の中ではハードが主体となっているが、運営の在り方については十分に検討されていない部分もあり、それは今後検討していく。

現段階で、どうしていくかは検討できていない状況。

伊藤浩司委員

岩館委員に関連して、資料を見る限りほとんどが施設と予算が関係している。

私が思うに、道の駅というのは、向きとか駐車場がわかりにくいとかいろいろな問題があるが、一番の問題はソフト面というか運用面だと思う。夕方5時になると店が閉まるとか、休憩機能が最もだと思うが、運用面も大事だと思う。限られた面積の中で苦勞されたのはわかるが、実際問題運用面がしっかりしなければなにもならないと思います。

そこで、これから運用面を考えるということだが、運用面はどの組織で考えるのか。インバウンドの問題もそうだが、インバウンドは今なら上海とか台湾しかないし、一般のインバウンドは、あまり石鳥谷に来るとは考えられない。そのため、観光ルートというか道の駅を休憩地点として呼び込むとかのことをするのが誰なのか全くわからない。

今までの道の駅というのは酒匠館の法人にお任せして、農産物は社の蔵にお任せして、全体を統括するものは何も意見できない状況だった。そうすると、建物は変わっただけで運用面は全く変わらない。そのため、それをコントロール出来るような組織を地域振興課等で持ち、常に検討するとかしないと施設が変わったところで何も変わらないという状況になってしまうため、そこが一番大事だと思うので検討していただきたい。

菅原総合支所長

伊藤委員がおっしゃるとおり、どう運営していくかというのは大事な部分である。そういった部分についてはこれからの部分ではあるが、関係者から意見を聞きながら詰めていかなければならないが、そういう組織を立ち上げるのかは検討させていただきたい。

#### 伊藤浩司委員

以前話をした際、酒匠館の法人に対して市役所がなかなかコントロール出来ない状況とのことで、施設を再編したとしてもまた同じ状況にならないか。

もっと極端なことを言うと、酒匠館でお菓子を作っているが、それらは実際地域で売っていないもの。例えばイオンにある産直とかは品ぞろえとか良くて素晴らしいと思ったりしているので、そういった運営者に運営を委託するなどもっと根本的なところから考えてみてもいいと思う。今ある既存の権利とかを大事にし過ぎて、道の駅の休憩機能を強めようとするのなら、既存を変えろとは言わないが変えるくらいの気持ちで取り組まなければ素晴らしい道の駅は出来ないと思う。その辺りから検討してもいいと思うのでよろしくお願ひしたい。

#### 大竹佐久子副会長

今の伊藤委員の意見に私も賛成でして、この資料を見たときにソフト面が全く見えていないのが非常に心配になった。私は個人的に道の駅巡りが大好きで、いろんな県のいろんな道の駅に行っているが、目を転じて自分の地域にある道の駅に魅力的なものが無い。本当にここが道の駅かって思うくらい、石鳥谷を表現したい全体のコンセプトが見えてこないのが感じられる。賢治の像が酒匠館の前に出来たりと少しずつの変化はあるが、情報発信館に情報を発信するようなものが、ほとんどない。

私もいろいろ見ている、これではお客さんが来てもなにも楽しいことがないのではないか、売りが見えてこないという部分があるので、もっとソフト面を程度の高い方が他所から来ていただいて、こうじゃないかと意見を言っていたらほうがかももっと前向きにいけるのではないかと私は感じている。

今年リニューアルするのであれば、そういった面も大いに頑張ってもらってやっていっていただきたいと思う。

#### 八重樫康治委員

伊藤委員さんとの意見と重なるが、最初配置計画を見た際にトイレの位置が変わっただけで、それぞれの建物は増やしたりしているが、例えば南部杜氏伝承館でお酒を売るであったり体験してもらおう等あるかもしれないが、南部杜氏というと今石鳥谷よりも紫波の方が積極的に関わっているいろんな文化を発信している。

やはり、道の駅である以上他との繋がりがあつて石鳥谷にこだわらないで、いろんな産物を受け入れて楽しんでもらうという視点が大事ではないかと思う。最初話に出ましたが、やはり支所だけでやろうとしても難しく、花巻市としてどうするのかといった取り組みが大事ではないかなと思う。

そして産直については、段々と出品する人の数や販売額も落ちているという話を聞く。

新しい人はなかなか入りにくい状況になっているし、レイアウトを変えるにしても、既得権みたいな形であまり他の人へ広げたくないといった話も聞いている。今の産直はいろんな物販と合わせて農産物がかなりのウエイトを占めているし、その農産物も地元と行ってここら辺りではなく町内のいろいろなところから集めてきて、小さい「だあすこ」のような形でやっていかないと、お客さんがなかなか喜んでくれないのかなと思う。

そういう意味で既存のシステムに依存するのではなくて、もっと広い視点で、新たな関わる人を増やしていくことではないかなと思う。それから、役所の人間や私たちだけだとソフトの部分でやれることは限られているのではないかと思うので、民間もいろいろなノウハウを持っているので委託をしながら、いろんな考えをまとめていく検討をしていったいいのではないか。

#### 伊藤浩司委員

道の駅を考えると、石鳥谷に夕方頃お客さんが来て食事をするとなると、りんどう亭は5時で閉まっているし、芽吹き屋も6時で閉まるため夕食を食べる場所が石鳥谷に無いので考えていただきたい。

#### 似内英悦会長

私も閉店時間は気になっていたが、これは道の駅の統一時間なのか。冬は暗いから仕方ないと思うが、夏に太陽が出ている時間帯に閉店時間というのは果たしてどうなのかと思っていた。

#### 地域振興課菊池主査

この話は、道の駅の駅長会議などでよく出る話題で、道の駅の利便性を考えれば委員がおっしゃるとおり、長い時間開いていて家族連れ等で食事を摂りたいみたいな状況があるが、その反面、現場の駅長や運営者からは、なかなか開けていても客が来ないので実態だと言われ、例えば試しに8時9時までやってみたけれども人が来ないので、人が来やすい時間や人件費のことを考えると、5時30分や6時に閉めざるえないという意見もあるようです。

例えば頑張っているところであれば、道の駅とうわの構成施設は東和温泉ですので東和温泉のレストランは閉店近くまでやっています。道の駅の括りというのであればそれは違うとは思いますが、こういうところもありますし、それぞれの事情があるけれども、頂いたご意見ですので、今後さまざま検討していきたいと思えます。

#### 菅原総合支所長

道の駅の施設というのは市の施設だけではなく、国の施設もあるということで、国に視認性の改善や駐車場の拡大をなんとかしていただきたい、あるいはトイレの位置が市

の施設を利用する人にとっては動線上にないといった課題があるので、なんとか解消していただきたいということで要望をしたり話し合いをしたりして、道の駅の配置等の計画を作ってきた経緯がございまして、そういう意味ではハード的な部分が主体になってしまっているというのはご指摘のとおりでございます。

ソフト的な部分、例えば伝承館につきましては、石鳥谷の造り酒屋は、ひとつになってしまった状況ですけれども、常時は難しいが、伝承館では試飲販売をするということを考えており、南部杜氏が作ったお酒を試飲出来たり販売できたりすることを目指しており、紫波町などとも連携できる場所は連携することも検討しているところでございますし、産直につきましても多くの方に農産物を入れていただき、品揃えを多くして満足していただけるような産直に組織的な部分を含めて考えていく必要があるのかなと思っております。

そういったソフト的な部分については、今日皆さまからいろいろなご意見いただいたものを参考にしながら考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

#### 似内英悦会長

今回はソフト面が足りないし載っていないのではないかと、ソフト面をどう見ているのかということがあったような気がします。

岩手県第1号の道の駅であれば、ソフト面をこうやるぞという立派なものを考えていただければ嬉しい気がします。

まだご発言になってない委員さんで是非発言したいという委員さんがいればご発言いただきたいと思います。

#### 鎌田愛子委員

この資料を見せていただいたときに、在任期間の時に道の駅をどうするかという皆さんから意見を頂いて、凄く楽しかったのがこれが夢ではなくて本当になるのだなということで資料を見させていただきました。

私にとっては凄く夢があって楽しそうだし、中で仕事をする人も楽しみじゃないかなと本当に思いました。今石鳥谷の町の中で、若い方もそうですし私たちみたいな家庭から少し自由に出れるようになった時に、どこか繋がれるところがあるかとなると今はあまり見当たらず、こういう道の駅は観光を主としているかもしれませんが、住民の方がちょっと道の駅に行ってお話しを出来るようなスペースになっているのではないかなと私は喜んでます。

先程から皆さまがおっしゃっているとおり、産直なら産直の野菜を作られている方や物産店で物を出している方、酒匠館でも酒について分かっている方が中心になって進めていくと思うが、これからは若い人を取り込んで、若い人の意見を取り入れるような組織づくりをしていき、若い人達の話の吸い上げながら、外部からエキスパートみたいな

人と一緒に、時間はないが密にやっていけば本当に楽しい道の駅になるのではないかなと期待しておりますので、そういう方向で皆さんが声掛けをしていただいて、連携をちゃんとしていただければと思います。

#### 高橋公男委員

皆さんのおっしゃる意見は、全くそのとおりだと私は聞いておりました。この岩手県第1号の道の駅が平成5年で、もう25年経っておりますが、当時はやっぱり国の施設として、国が国道4号の傍に道の駅を造るといって始まったもので、その後それぞれ酒匠館、伝承館、りんどう亭と各々の目的で建ててきたものですから、そこで一貫性のない道の駅になってしまったのが現状であると思います。

従って、まさにこの再編計画は、私は非常に良かったのではないかなと、ようやくここまで来たなと感じておりました。再編をするために、この計画を作ろうということは、かなり前から始まっておりましたが、なかなか現実味が出て来なかったため、私はようやくここまで来たなという気持ちを持ってしまして、職員の皆さまには、ご無理をおかけしたなと思っております。もちろんハード面だけの計画ではありますが、皆さんがおっしゃるとおり、これが完成しましたら今度は魂を入れていくということで、やっぱりソフト面を徹底的にどういう形にすれば、みなさんが寄れる、そして目的に沿った道の駅になっていくか、やはり今度は慎重にソフト面を計画的に考えていただきたいなと思っております。

特に、当時はナマコ壁ということで、石鳥谷は南部杜氏発祥の地ということで酒屋にちなんだ道の駅というイメージがあったのではないかと私は思っております、ということで、今度は国道4号側のナマコ壁をとっていくわけですね。従って、入りやすいようにするわけでございますし、南部杜氏協会という協会がここにはありますので、やはり酒屋が消えてしまったとしても南部杜氏協会という南部杜氏発祥の地ということで、現在も全国的に拠点となっていますことから、それを生かしていかなければならない、この地域の特徴だろうなと思っております。

なお、北側の用地を買収して駐車場を広くするというので、前から望んでおった訳ですが、なかなか財源的なこともございまして、難しかった訳でございますが、よく今回あそこまで手を伸ばしてくれたなということで、大変歓迎をしておりますので、30周年に合わせ、ソフト面も合わせて完全なものに仕上げただけであれば大変よろしいのではないかとということで、私は大変喜んでいることで一言意見を申し上げた次第です。

#### 藤澤信悦委員

どれくらいの予算で計画しているのかなと疑問に思っているのが1点で、意見としては、24ページの南部杜氏伝承館のリニューアル市民ワークショップの部分があつて面白いなと思えました。子供が楽しめるような体験が出来るなど体験コーナー、体験プロ

グラムなどの提案があったと書いており、これを是非生かして欲しいなと思うのですが、酒造りという酒の好きな人で運転手以外の人がしか体験できないと思うのですが、むしろ子供がもっともっと楽しめる、あるいは、10代・20代辺りの人が楽しめるような施設を造れないものかなと思っていました。

道の駅を造るにあたって、おそらく何かの制限があるだろうと思っていて、そこがあまりよく分かっていないので、これ以上は言えませんけれども、子供達、若者達が楽しめるような施設を造れないものかなというのがひとつで、石鳥谷地域全体、私は八幡でございますけれども、八幡というと、例えば田んぼアートを我々一生懸命頑張っておりますが、八重畑ではりんごの収穫体験、あるいはいちごの収穫体験もできるかと思うし、八日市ではつるし雛、あるいは新堀の米田くんとかいろいろなことを考えれば出来ると思うので、ここの道の駅に寄った人が、優先的に石鳥谷を楽しめるような何か方法がないのかな、道の駅を訪れた人に何か特権的なものがないのかなと感じております。

#### 菅原総合支所長

事業費については、国が関連してくるところがございまして、現段階で皆さんに公表出来る状況にありません。それから先ほど子供の体験もございましたが、ただ見るだけでは、やはりつまらないと思いますので、伝承館は体験型の展示を出来ればと考えているところでございます。

#### 板垣武美委員

概算事業費ですが、基本計画に書くべきとは思いうまいのかと思いました。これは答えなくていいです。利用者数のデータは掲載されておりますが、産直施設とか酒匠館等の売上額の推移、あるいはリニューアル後の売り上げは予測されていると思いますが、もし可能であれば載せるべきではないかと思いました。次に、25ページの上の部分に「石鳥谷は南部杜氏伝承の地」となっており、私はずっと「発祥の地」と教えられてきたがこの「伝承の地」という言葉を用いた背景というか事情があれば教えていただきたい。それから、利用者数の中で地元住民の利用割合が分かれば知りたいと思いました。パークゴルフ場の件ですが、何故パークゴルフ場は今回の計画では温存されているのかと思っております。実際の利用状況が分かっておりませんが、パークゴルフ場こそ何らかの手を施して、居住者憩いの場にする最適地だと思って見ている。ここにも確か塀があったが、可能であればそういうものを取り払って、子供連れの若夫婦がくつろげるようなイメージを持っておりますが、パークゴルフ場をなんで手を付けなかったのかお聞きしたいと思います。道の駅のリニューアル事業をもって南部杜氏の里づくりは完成されたと考えていいのか、それとも道の駅のリニューアルを端緒としてまだまだ南部杜氏の里づくりは続くというどちらの方向性なのかお聞きしたい。駐車区画数が現行111台を190台にされると今日の岩手日報で拝見しましたが、中途半端な感じがしますの

で200台に出来ないのか。駆け足で話しましたが、お答えできる部分については回答をお願いしたい。

菅原総合支所長

産直と酒匠館の売り上げは、18ページに5年おきに載っておりました。南部杜氏伝承の地については、南部杜氏発祥の地というのは以前確かにそういう言い方をしておりましたが、現在南部杜氏発祥の地は紫波町ということで、そういう表現は出来ないなということで、それに変わる表現ということで使わせていただきました。パークゴルフ場については、確かに今回の検討の中には入れてなくて、今回一緒に検討すべきなのかもしれませんが、借地ということもございまして、そのあり方をどうするかといったことが結論できていないといったところでございます。駐車マスの数については、2030年の将来予測交通量を元に、NEXCOの算定基準で算定しておりました、その算定結果で出た数値で計画を作っているところでございます。南部杜氏の里づくりについては、主要な部分の施設の再編計画を今回お示したところでございますが、南部杜氏の里づくりについては、これからの進め方を含めて、もう少しご意見を賜っていきたいと考えているところでございます。

地域振興課菊池主査

私の方から、地元住民の利用割合ということで、7月7日の道の駅感謝祭において、アンケートを取っております。調査員が対面式で70人の方から聞き取りをしております。その中で出発地について尋ねたところ、花巻市内が53.5パーセント、花巻市以外の岩手県内が33.8パーセント、岩手県外が12.7パーセントでした。ついでですが、利用頻度については、10回以上の方が51.4パーセント、初めての方が21.4パーセント、残りの方が2回以上9回以下といったパーセンテージになっております。ちなみに、ある研修会におけるマーケットの状況ですが、一般論として車の移動が1時間程度である方が道の駅の主な客層になります。それからリピーターはだいたい7割くらい、それから50代以上が5割から7割を占めるというのが、一般的な道の駅のマーケットの状況だそうでございます。

似内英悦会長

お約束の時間に近づいてまいりましたが、いかがでしょうか。

言うのも申し訳ないけど今回は生煮えだった。いつかの時点で地域協議会の委員さん方にパブコメの状況、あるいはそういったものを踏まえてこうなりましたよという結論めいた形でお諮りする機会を作っていただけませんか。

菅原総合支所長

この後パブリックコメントをして、修正をして最終的な決定をするということですので、またこの地域協議会にご報告する機会を設けるようにしたいと思います。

似内英悦会長

そうしていただければいいのではないかと思います。これからパブリックコメントがあるのに途中で意見を聞いたのかとなるので、パブリックコメントを踏まえてこう作りました、地域協議会としてはどうでしょうかとした方がいいような感じはします。

先に進むようでございますが、道の駅石鳥谷施設再編基本構想・基本計画については、ここで閉めてよろしいでしょうか。

#### 4 その他

似内英悦会長

次のその他に入ります。総合支所の方から何かありますでしょうか。

晴山地域振興課長補佐

協議するような事項ではございませんが、情報提供ということで、新年度において諮問が予定されている案件について、情報提供させていただきます。

具体的な時期や詳細については提示されておりませんが、1点目として国土利用計画花巻市計画の改定が予定されておりました、担当部署が建設部都市政策課になります。市の土地利用の方向性を定めるものですが、こちらについて諮問予定がございます。

続いて、2点目花巻市まちづくり総合計画第3期中期プランで担当部署が総合政策部秘書政策課になります。内容につきましては、2020年から2023年までに取り組む施策の方向や目標、主要事業について掲載した計画になりましたこちらの諮問が予定されております。

開催について、具体的な依頼を受けましたならば、会長にご相談の上、委員の皆さまにお知らせいたしますのでよろしくお願い致します。

似内英悦会長

各委員さんから何かございますか。

板垣武美委員

地域協議会ですが、今年度は今日の2回をもって終了ということですので。私としては、年4回開催して欲しいと思います。今お話しがあったとおり、新年度においては、最終期である第3期中期プランの策定もありますので、いきなり諮問されていきなり答申

というのは本来の姿ではないと思いますので、勉強というか学習も含めて計画的に最低でも年に4回は開催していただきたいと思います。

似内英悦会長

意見がございました。他にございますか。

休憩時間の方が密度の濃い時間となっておりますが、私達それぞれ委員が疑問点を持っておりますのでその分はある程度参酌して会議を開くようにしていただければと思います。

それぞれの団体の代表の方々ですので、地域協議会にて話し合われた内容については、それぞれの団体に持ち帰ってこういう話が出ているけど、どう思うかと意見を聞く機会も作って、ここにその意見をもってきて反映させていただくのもひとつの案だと思います。

そういうことで、板垣委員さんからは年4回という話も出されたわけですが、各団体の役員さん方は、毎月1回以上の会議をやっているということで、それ以上にここに来て会議をやるのも果たしていいものなのかどうか私も疑問に感じる。そうであるから、事前に会議の資料を渡していただいて、地域協議会の中では短時間で話を進め、むしろ各団体の課題を解決するように努力していただければと私自身は感じている。

今日はお忙しいところだったと思いますが、ご出席していただいたことに感謝を申し上げまして閉会といたします。ありがとうございました。

## 5 閉 会